

コラム

3. ロータリーとは？

1) ロータリーをどう説明するか

「ロータリーとは？」と一般人から真面目に問われた時、我々ロータリアンは、果たしてどう答えるべきでしょう？ この命題について考えていく前に、我々ロータリアンは、普段、“ロータリー”という言葉はどういう時に、どういう意味で使っているのかを考えてみましょう。とりあえず、次の5つを考えてください。

- ① (狭義の) ロータリークラブ <各々のクラブ1つ1つを指す場合に使う>
- ②各々のロータリークラブからなる組織全体の抽象語
- ③ロータリアン
- ④国際ロータリー (R I : Rotary International)
- ⑤超我の奉仕という人生哲学

実は、我々は状況に応じて、この5つの意味を使い分けながら“ロータリー”という言葉を用いているのです。もしかしら、『⑤超我の奉仕という人生哲学』には疑問を感じる方もいるかも知れません。しかし、この⑤こそ、ロータリーの真の意味だと思っている方も少なくないのです。

それでは、順番に考えていきましょう。

① (狭義の) ロータリークラブ <各々のクラブ1つ1つを指す場合に使う>

最初の『① (狭義の) ロータリークラブ』というのは、ロータリーの各々のクラブ1つ1つを指す時に使います。例えば、「彼女は、うちのロータリーのメンバーです」と語る場合です。説明するまでもなく、「うちのロータリー」＝「うちのロータリークラブ」という意味で使っていることは明らかです。

②各々のロータリークラブからなる組織全体の抽象語

『②各々のロータリークラブからなる組織全体の抽象語』というのは、少し分かりづらいかも知れません。しかし、使う頻度としては意外に多いのです。例えば、「ロータリーの歴史」、「ロータリーの職業奉仕」、「ロータリーの原理原則」などと語る場合です。いずれの場合の“ロータリー”も、ロータリークラブの組織全体を抽象した用語として使っています。

具体的な事例として、「ロータリーの原理原則」と語る場合のことを考えてみましょう。

説明するまでもなく、「ロータリーの原理原則」の“ロータリー”は、1つ1つの『① (狭義の) ロータリークラブ』のことではありません。つまり、「ロータリーの原理原則」と「(例えば、寒河江) ロータリークラブの原理原則」とは、内容的に別のものです。

同様に、「ロータリーの原理原則」＝「ロータリアンの原理原則」ではないことも、それらの内容を考えればお分かりになるでしょう。つまり、「ロータリーの原理原則」の“ロータリー”は、『③ロータリアン』の意味で使われているわけではありません。

もしかしたら、「ロータリーの原理原則」の“ロータリー”は、『④国際ロータリー』という意味だと主張する方もいるかも知れません。しかし、「ロータリーの原理原則」と「国際ロータリーの原理原則」とは、内容的に別のものです。私も立場上、職業奉仕セミナーなどで「ロータリーの原理原則」について語ることはありますが、「国際ロータリーの原理原則」を語っているつもりは毛頭ありません。

ロータリーに精通している人の中には、「ロータリーの原理原則」の“ロータリー”は、『⑤超我の奉仕という人生哲学』という意味だと考える方もいるかも知れません。確かに「超我の奉仕という人生哲学」は、ロータリーの原理原則の中で重要な位置を占めています。しかし、ロータリーの原理原則の全てではありません。すなわち、「ロータリーの原理原則」＝「超我の奉仕という人生哲学の原理原則」ではないということです。

やはり、「ロータリーの原理原則」の“ロータリー”は、『②各々のロータリークラブからなる組織全体の抽象語』として使っていると考えるのが妥当だと思います。

③ロータリアン

次に、『③ロータリアン』について考えてみましょう。例えば、よく耳にする「不行き届きな点については、ロータリーの友情に免じてお許しください」と語る場合の“ロータリー”です。これは、「ロータリアンの友情に免じて」という意味で使っているのではないのでしょうか？ 少なくとも、『①(狭義の)ロータリークラブ』や『④国際ロータリー』や『⑤超我の奉仕という人生哲学』の友情に免じて・・・」という意味で使っているではありません。もしかしたら、『②各々のロータリークラブからなる組織全体の抽象語』として使っていると考える方もいるかも知れません。確かに、それも悪くないような気がします。この辺りは、使っている人の感覚の違いと言ってもよいでしょう。

では、我々が例会でよく暗唱する「ロータリーの目的（綱領）」の場合の“ロータリー”についてはどうでしょう？ 実は、これも『③ロータリアン』という意味なのです。その理由は、「ロータリーの目的（綱領）」の主文と付随4項目は、何が主語として適切かを考えれば分かります。①～⑤の各々5つを主語にして、じっくり読み比べてみてください。そうすれば、『③ロータリアン』が主語として最も適切であることは、容易に理解できるはずです。つまり、「ロータリーの目的（綱領）」＝「ロータリアンの目的（綱領）」なのです。

④国際ロータリー（R I : Rotary International）

実は、「ロータリーは（Rotary is）」で始まるR I公式文書が二つあります。その一つが、以下に記した1976～77年度の国際ロータリー理事会で採択された文書です。

「ロータリーは、人道的な奉仕を行い、あらゆる職業において高度の道徳的水準を守ることを奨励し、かつ世界における親善と平和の確立に寄与することを目指した、事業及び専門職務に携わる指導者が世界的に結び合った団体である」

“Rotary is an organization of business and professional leaders united worldwide who provide humanitarian service, encourage high ethical standards in all vocations and help build goodwill and peace in the world”

「ロータリーは (Rotary is)」で始まるこの採択文書を、じっくり読んでみてください。そうすれば、この文書は『④国際ロータリー』の定義そのものであることに気がつくと思います。

正式には、国際ロータリーの定義は「全世界のロータリークラブの連合体である」(国際ロータリー定款第2条)ですが、これをもう少し分かり易く説明すれば、上記の採択文書になってしまうということです。

ちなみに、ロータリー章典(33.040.4.)や手続要覧(2013年版)第4章「国際ロータリー」にも、『ロータリーという言葉をそれだけで使う場合、通常、国際ロータリーとしての組織全体を指す(When used by itself, the word “Rotary” normally refers to the entire organization, Rotary International)』と書かれているのです。

実際、上記の採択文書は、ロータリーの定義としてあちこちで目にします。しかも、一般人にとっては分かりやすい内容です。それだけに、この1976~77年度のR I 理事会で採択された文書こそ、「ロータリーとは？」と問われ時の回答として適切であると、すんなり納得してしまうロータリアンは少なくないような気がします。

ところが、多少なりともロータリーの歴史を知り、ロータリーの何たるかを学んできたベテランのロータリアンにとっては、「ロータリー」=「国際ロータリー」ではないのです。むしろ、そういう人たちは、「ロータリー」という言葉を『④国際ロータリー』という意味では使いたがらない傾向があるように思います。

恐らく、そんなベテランロータリアンの方々は、上記1976~77年度のR I 理事会による採択文書に対しても、「冒頭にある主語は、「ロータリーは (Rotary is)」では不適切だ。むしろ、「国際ロータリーは (Rotary International is)」と訂正するべきだ」と主張されると思います。実は、私もその一人です。

⑤超我の奉仕という人生哲学

では、もう一つの「ロータリーは (Rotary is)」で始まるR I 公式文書を紹介しましょう。それは、1923年に採択された決議23-34の1)です。

<決議23-34の1>

ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕—「超我の奉仕」の哲学であり、これは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである。

1) Fundamentally, Rotary is a philosophy of life that undertakes to reconcile the ever present conflict between the desire to profit for one's self and the duty and consequent impulse to serve others. This philosophy is the philosophy of service—"Service Above Self" and is based on the practical ethical principle that "They Profit Most Who Serve Best."

残念ですが、前半の「公式の日本語訳」については、個人的には賛同しかねます。特に、“基盤、根本を成す” という意味での *Fundamentally* が、“基本的には” と訳されているのは大いに疑問です。しかも、副詞である *Fundamentally* が文頭に出された強調構文であることを考慮していない日本語訳です。また、内容にしても、よほどロータリーに精通した人でないと分からないような日本語訳です。

ここでは、「利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするもの」＝「利己と利他の心を上手く調和させる」と、簡潔に言い換えた上で、私なりの（分かりやすく要約した）日本語訳を以下に記します。

<決議 23-34 の 1) : 分かり易く要約した文章>

ロータリーの根本は、人生哲学です。それは、利己と利他の心を上手く調和させる哲学です。この人生哲学を、「超我の奉仕」と言います。そして、この哲学は、実生活上、実に道理にかなった「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という言葉を原理原則としています。

上記は、英文の順番を尊重して分かり易く要約したものです。しかし、これでも分かりにくいと言う方もいるでしょう。では次に、(英文の順番よりも) 英文の意味するところを尊重して、さらに分かり易く要約した私なりの日本語訳を記します。

<決議 23-34 の 1) : さらに分かり易く要約した文章>

ロータリーの根本は、利己と利他の心を上手く調和させる「超我の奉仕」という名の人生哲学です。それは、実生活上、実に道理にかなった「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という言葉を原理原則とした人生哲学です。

いずれにしても、「ロータリーは (Rotary is)」を主語とした決議 23-34 の 1) では、「ロータリー」＝「超我の奉仕という人生哲学」と明確に述べられています。しかも、決議 23-34 は今でも正式な採択決議として残っています。したがって、「ロータリー」＝「超我の奉仕という人生哲学」は、今も生き続けているということです。

ロータリーを実践するとは？

ところで、皆さんは Ron D. Burton 国際ロータリー会長の 2013-14 年度 R I テーマを覚えていらっしゃいますか？ そう、「ロータリーを実践し、みんなに豊かな人生を (ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES)」でした。では、この「ロータリーを実践し」の“ロータリー”は、どういう意味で使われているのかを考えてみましょう。『① (狭義の) ロータリークラブ』を実践・・・でしょうか？ 『②各々のロータリークラブからなる組織全体』を実践・・・でしょうか？ それとも、『③ロータリアン』を実践？ あるいは、『④国際ロータリー』を実践？ もちろん、どれも的外れと言わざるを得ませんね。つまり、これこそが『⑤超我の奉仕という人生哲学』を実践し・・・という意味であり、Ron D. Burton は、ロータリーの真髄を実践しようと提唱したということです。これは、「ロータリー」＝「超我の奉仕という人生哲学」が、今も正しいものとして生き続けているという何よりの証拠でしょう。

「ロータリーの奉仕理念」＝「超我の奉仕という人生哲学」

誤解されないように、ここで、現在のR Iの方針について付け加えておきます。実は、2010年1月のR I理事会で、ビチャイ・ラタクル元R I会長の要請により、「決議 23-34（社会奉仕に関する 1923 年の声明）を今後のロータリー章典と手続要覧に含めること」、及び以前の「これと相反するような決定を無効にすること」が採択されました。

さらに、同年4月のR I規定審議会において、『決議 23-34 の 1)』を『ロータリーの奉仕哲学』として使用することを検討するよう理事会に要請する決議案 10-182 が可決されました。これを受けた同年6月のR I理事会は、「決議 23-34 に定義されるロータリーの奉仕理念は、現在、『手続要覧』と『ロータリー章典』に含まれていることを確認した』という決定を下しました。このR I理事会決定の表現は、玉虫色の感はぬぐえませんが、決議 23-34 の 1) で定義された「超我の奉仕という人生哲学」を以て、「ロータリーの奉仕哲学（奉仕理念）」と定めたという解釈でよいでしょう。すなわち、「ロータリーの奉仕哲学」、「ロータリーの奉仕理念」とは、「超我の奉仕（という人生哲学）」のことを示すのです。

<まとめ>

最後に、本稿の命題「ロータリーとは？」について、以下のようにまとめておきます。

我々は“ロータリー”という言葉について、以下の5つの意味を状況に応じて使い分けながら口にしています。

- ①（狭義の）ロータリークラブ <各々のクラブ1つ1つを指す場合に使う>
- ②各々のロータリークラブからなる組織全体の抽象語
- ③ロータリアン
- ④国際ロータリー（R I : Rotary International）
- ⑤超我の奉仕という人生哲学

では、「ロータリーとは？」と問われたら、我々はどう答えるべきでしょう。少なくとも①②③は、回答としては不適切です。

「ロータリーとは？」と問われた時、1976～77年度のR I理事会で採択された「ロータリーの定義」を語るのには、一般人に対しては良いでしょう。その説明は、一般人には確かに分かりやすいと思います。しかし、「ロータリーとは？」をロータリアンに対して語る時は、「超我の奉仕という人生哲学」についても説明するべきだと思います。なぜなら、それがロータリーの真髄を学ぶことに繋がるからです。言い換えれば、「ロータリーとは？」と問われたら、一般人に対しては「ロータリー“広報”」を語り、ロータリアンに対しては「ロータリー“情報”」についても併せて語るべきだということです。

本稿を読んでくださったロータリアンの皆様におかれましては、今後、「ロータリーとは？」という問いについては、1976～77年度のR I理事会で採択された「ロータリーの定義」と、1923年に採択された決議 23-34 の 1)「超我の奉仕という人生哲学」とについて、きちんと使い分けて聞く（または語る）ようにしていただければ幸いです。

<追記①>

私は、1976～77年度の国際ロータリー理事会で採択された「ロータリーの定義」について、何ら異論はありません。ただ、以下に記したように、「冒頭にある主語は、“ロータリーは (Rotary is)”ではなく、“国際ロータリーは (Rotary International is)”と訂正するべきだ」と思います。

<「1976～77年度の国際ロータリー理事会で採択された文書」の正しい読み方>
(国際) ロータリーは、人道的な奉仕を行い、あらゆる職業において高度の道徳的水準を守ることを奨励し、かつ世界における親善と平和の確立に寄与することを目指した、事業及び専門職務に携わる指導者が世界的に結び合った団体である。
“Rotary (International) is an organization of business and professional leaders united worldwide who provide humanitarian service, encourage high ethical standards in all vocations and help build goodwill and peace in the world”

<追記②>

「ロータリーとは？」と人から問われた場合、私の立場としては、ここまで解説してきた内容が全てです。但し、個人的な意見は少し違います。私は、ロータリーの教育的性格を説く Guy Gundaker の信奉者として、以下の内容についても併せて語るようにしています。

<“ロータリー”とは？(個人的意見)>
ロータリーは、事業、専門職務、地域社会のリーダーらによって構成され、親睦と寛容、個人の資質向上、事業の維持・発展に努めるとともに、家庭や仲間、職場、地域、国際社会における幸福の達成に寄与する「奉仕の心と実践」に満ちた立派なロータリアンを育てる世界的な団体である。
(Guy Gundaker の「ロータリークラブの定義」を参考に、最近のRIの方針を加味して(私が)作成した文書)

上記の文章は、Guy Gundaker の名著『A Talking Knowledge of Rotary』(1916年)の中に記されている「ロータリークラブの定義」を参考にしながら、最近のRIの方針を加味して、私が作成したものです。この本は、当時のロータリーの一般奉仕概念とクラブ運営の在り方を体系化したもので、史上初めてのロータリーの教科書・解説書と言ってもよいでしょう。しかも、書かれている内容は、決議 23-34 の下地にもなっているのです。

Guy Gundaker は、その本の中で「ロータリーの教育的性格 (ロータリーは、ロータリアンという立派な職業人を育てるのです)」を説いています。すなわち、我々がよく耳にする「入りて学び、出でて奉仕」や「自己研鑽の奉仕」の原型が、既に記されているのです。



ロータリーの教育的性格は、その後も脈々と受け継がれてきました。例えば、1954-55年度のRI会長で、4つのテストの創始者としても有名な Herbert J. Taylor は、“Rotary is maker of friendships and builder of men” (ロータリーは友情を作り、人を作る) と述べています。また、1974-75年度RI会長の William R. Robbins も、“Rotary’s first job is to build men” (ロータリーの第一の仕事は、人作りである) と述べているのです。

上記の < “ロータリー” とは？（個人的意見） > は、覚えるには少し長過ぎる文章かも知れません。そこで、その文章を（本質は変えずに）短くした以下の内容を紹介します。これなら誰でも覚えられるし、Guy Gundaker からも叱られないと信じています。

< “ロータリー” とは？（個人的意見：簡潔版） >

ロータリーは、

- ①ロータリアン同士の友情を基盤に、
- ②価値ある奉仕を行い、
- ③立派なロータリアンを育てている

世界的な団体である。

それにしても、最近のロータリーは様変わりしてきました。例えば、「奉仕の心と実践に満ちた職業人を育てるロータリー」から「団体で奉仕事業をするロータリー」へと変容してきたような気がします。それだけに、国際協議会や国際大会、ロータリー研究会でも「ロータリーは、世界で最も素晴らしい奉仕団体である」という言葉を何度も耳にします。確かに私も、世界で最も素晴らしい奉仕団体には違いないと思っていますが、気持ちの上では少なからず抵抗があります。なぜなら、上記の①と③が抜け落ちているからです。私は、上記の①と③がないロータリーに魅力を感じません。

さらに、「一業種一名の原則が一業種数名へ」をはじめ、「職業を持たない人でも入会可能」、「例会日の減少」、「会員特典ロータリー・グローバル・リワードの導入」などは、時代の流れとは思いつつも、心にストンと落ちません。R I が目指す所は「ロータリーの公共イメージ向上」と「会員増強」なのでしょうが、それなら「ロータリーとは？」の回答は、むしろ私が作成した上記の < “ロータリー” とは？（個人的意見：簡潔版） >こそ分かり易くて、かつ相応しいように思うのですが、皆さんは如何お考えでしょう？

(2014年10月1日 初稿 2018年2月20日 最終改訂 文責：鈴木一作)